公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信　uniwish10号（2013年11月）

佐賀県佐賀市水ヶ江4丁目2番2号
（電話・FAX）０９５２－２８－２０７７
（業務時間）　月・火・木・金 10：00～15：00
E-mail　unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ　http://www.saga-unicef.jp/
FBページ　http://www.facebook.com/unicef.saga

フィリピン台風

タクロバン市の水処理施設が100%復旧　3万か所で給水可能に

【2013年11月17日　ニューヨーク/マニラ/タクロバン発】

現地時間16日夜、タクロバン市と周辺6自治体で、水処理施設が完全復旧。浄化された水が3万か所で供給されるようになりました。

台風30号がフィリピンに上陸してから1週間以上の間、レイテ島の水処理施設は通常の5分の1の規模でしか機能しておらず、被災者の健康の悪化や感染症の拡大が危惧されていました。

ユニセフは、フィリピン軍と米国国際開発庁(USAID)と交渉。ひとまず、フィリピン軍から水処理施設の稼働に必要な4日分の燃料を確保しました。5日目以降に必要な燃料については、USAIDが継続的に供給する予定です。

© UNICEF Philippines/2013/Kent Page
タクロバンできれいな水を手にする子ども

「下痢や水が原因となる病気を防ぐには、一人当たり、少なくとも一日15リットルの浄水を供給することが極めて重要です」とユニセフ・フィリピン事務所の穂積智夫代表は言います。

「今日我々が目の当たりにしたことは、政府や支援者、国連機関が密に協力して支援活動をすることが、文字通り、命を守ることになる、ということです。団結した努力によって、何十万人もの人々がきれいな水を充分使うことができ、調理をしたり、衛生的な生活を送ることができます」(穂積代表)

水処理施設が100%稼働できるようになったことで、3万か所で給水が可能になりました。水の供給量も1万5,000立方リットルから6万立方リットルに増加。給水を待つ人々の列の長さも短くなりました。

ユニセフは、過去48時間の間に、トラックや貨物機を使い、水と衛生分野の支援物資をタクロバンやロクサスをはじめとする被災地に届けました。きれいな水を供給するための復旧作業も継続して行っており、不衛生な環境や汚れた水によって引き起こされる病気のリスクの軽減を図っています。

次のステップは、水道管を修復し、遠隔地にもきれいな水を供給することです。

この台風で、およそ500万人を超える子どもたちが被災、そのうち78万9,000人が避難生活を強いられています。被災した子どもたち、特に家族と離れ離れになってしまった子どもたちが危険に直面していることは容易に想像できます。ユニセフは、子どもの保護の専門官も被災地に派遣しています。

【資料提供】日本ユニセフ協会

シリア

アンソニー・レーク事務局長がシリアを訪問
子どもたちへの予防接種は、緊急かつ最優先課題

【2013年10月29日　シリア・ダマスカス 発】

新たな課題

現在も続く紛争により、プライマリ・ヘルスケアは著しく崩壊しています。保健省によると、2013年7月時点で、公共の病院の60%と保健センターの34%が破壊されています。保健員などの人材不足も深刻で、ホムスを含むいくつかの地域では、医師の半数が国外に避難しています。

封鎖された地域や治安が悪化している地域では、子どもたちや家族に支援を届けることがますます困難になっています。これは予防接種を受ける子どもたちにとって、重なる試練です。

また、シリア東部ではWHOにより10件のポリオの症例が報告されました。

「子どもたちが予防接種を受けることは当たり前のことで、そこに政治や軍事の影響があってはなりません。1999年以来初めてポリオの感染が確認され、その感染が広がりつつあるシリアでは今、すべての子どもたちにポリオや他の予防接種を届けることが、緊急であり最優先すべき課題です。なぜなら、これはシリアだけではなく、全世界の問題だからです」（レーク事務局長）

© UNICEF Syrian Arab Republic/2013/Sanadiki
シリアの保健センターでは、保健員がポリオワクチンを投与しています。現在実施している予防接種キャンペーンは、240万人の子どもたちに命を守るワクチンを届けます。

予防接種キャンペーンを全力で

ユニセフとWHOは保健省の予防接種キャンペーンを支援しています。「このキャンペーンでは、160万人の5歳未満の子どもたちへのポリオ・ワクチンの投与を含め、240万人の子どもたちに命を守るために必要な予防接種を実施します」と話すのは、レーク事務局長に同伴した、ユニセフ・シリア事務所のイマン・バーナシ 子どもの保護・保健担当官です。

2013年、ユニセフはパートナーとともに、100万人を超える子どもたちに、はしか、おたふく、風疹、ポリオの予防接種を支援しました。また、ユニセフは1000万人の人々が安全な水を使えるように支援しています。

保健センターでは、レーク事務局長がシリア・アラブ赤新月社（SARC）の若いボランティアと面会し、彼らの勇気と毎日の献身を称えました。「あなた方の日々の献身に敬意を表します。そして、どれほど感謝してもしきれません」とレーク事務局長は若きボランティアの人々に伝えました。

ユニセフはパートナーとともに、シリア国内各地において、安全確保と実施可能性を考慮した上で可能な限りの緊急支援を広げています。

【資提供料】日本ユニセフ協会

かつどうほうこく

○10月3日（木）～10月9日（水）
ユニセフ写真展「ユニセフと日本の子どもたち」
（佐賀市立図書館２階ロビーギャラリー）
○10月6日（日）　ユニセフのつどい2013 ～ 世界の子どもの日 in SAGA ～
（佐賀市立図書館２階多目的ホール）
○10月18日（金）　募金贈呈式　佐賀清和中学校より（事務所）
○10月20日（日）　募金贈呈式&ユニセフ出前授業　柳川市立大和公民館なんでんお助け隊
（柳川市立大和公民館）
○11月2日（土）3日（日）トヨタ紡織九州レッドトルネード　日本ハンドボールリーグ大会会場にて
募金活動&ユニセフ・カードとギフト頒布（神埼中央公園体育館）
○11月3日（日）　募金活動&ユニセフ・カードとギフト頒布（日本バプテスト連盟佐賀キリスト教会）
○11月2日（土）～11月4日（月）
福島の子ども保養プロジェクトinさが
さが感動体験ツアー　～がばいうまか！がばい楽しか！がばいすごか！～
○11月9日（土）　日本ユニセフ協会九州地区地域組織交流会in佐賀県（佐賀新聞社）
○11月12日（火）　ユニセフ出前授業「字が書けるってすばらしい！」識字（柳川市立矢ヶ部小学校）
○11月16日（土）　フィリピン台風緊急募金活動（佐賀玉屋前）

活動詳報

11月2日～11月4日　　福島の子ども保養プロジェクト　in さが
さがの感動体験ツアー　　～がばいうまか。がばいたのしか。がばいすごか。～

主催：コープさが生活協同組合・佐賀県ユニセフ協会

日本ユニセフ協会は、東日本震災発生直後から他の被災地とは異なる状況に置かれた福島の子どもたちを対象に、放射線の心配をせずに外遊びができる機会を提供する『おもいっきり！そとあそび』プロジェクトを展開しました。その後、多くの団体やボランティアの方々によって「福島の子ども保養プロジェクト」として継続されています。
　この度、コープさがの組合員さんや関係者の方々の全面的なご支援によって福島の子どもたち（小学4年生から6年生まで8名と引率者2名）を、佐賀に迎えることができました。佐賀大学の学生さんもボランティアとして協力してくださいました。佐賀の豊かな自然のなかで子どもたちの笑顔がはじけました。
　帰路の佐賀空港ではすっかり仲よしになった学生ボランティアと写真を撮ったりアドレスを聞いたりおんぶされたりと、別れを惜しみました。子どもたちの荷物は佐賀のお土産でいっぱいになりましたが、それ以上の心のお土産ができたことでしょう。

11月2日（土）吉野ヶ里歴史公園で「あそこはどこだ！？よしのがりBINGOゲーム」
11月3日（日）佐賀インターナショナルバルーンフェスタ会場で木工体験「佐賀市の木であそぼう」
　　富士町市川地区で食育体験「トマトとホウレン草の収穫＆料理作り」
11月4日（月）鹿島市七浦地区で「ミカン狩り＆干潟公園で四手網漁体験」

◎子どもたちのひとこと。
＊吉野ヶ里で写真を見ながら「あそこはどこだ！よしのがりBINGOゲーム」をしたのが楽しかったし勉強になった。
＊ミカンが木になっているのをはじめて見た。ミカン狩りが楽しかった。
＊バルーンを楽しみにしていたけど雨が降って残念だった。でも、ストラップを作ったりミカン狩りをしたりして楽しかった。
＊ピザを作ったのが楽しかった。
＊その場でとったミカンを食べさせてもらったのが楽しかった。

11月16日（土）　フィリピン台風緊急街頭募金　（佐賀玉屋前）

　11月8日フィリピンに上陸した台風ハイエンは、多くの地域に甚大な被害をもたらしています。佐賀県ユニセフ協会は、フィリピンの子どもたちの命を守るため、緊急街頭募金活動をしました。「フィリピンの子どもたちのために自分にできることをしたい。」と、佐賀市立城北中学校人権委員会、野球部、陸上部の皆さん、コープさがの皆さん、佐賀大学生、他総勢43名のボランティアさんがご協力くださいました。
　皆様からお寄せいただいた募金は、125,601円にも達しました。ご協力まことにありがとうございました。

【活動を終えて】
＊２時間大きな声で頑張りました。みんなが協力してくれたのでよかったです。
＊私が大きな声で言っていることが通じて募金箱にお金を入れてもらうとき、とてもうれしかったです。

ユニセフのつどい2013
～世界の子どもの日inSAGA～

10月6日（日）　佐賀市立図書館２階多目的ホールにて

✿一緒にあそぼう！

ゲスト：マリアさん（ペルー）、モンタさん（エジプト）、荒木千尋さん（日本）

✿ワークショップ「これ、なぁに？」

ファシリテーター：佐賀県ユニセフ協会　白井恵里子

✿Let’s enjoy music!

演奏：佐賀ユースオーケストラのみなさん

主催：佐賀県ユニセフ協会
共催：（公財）佐賀県国際交流協会　佐賀市国際交流協会　佐賀ユースオーケストラ
後援：佐賀県　佐賀県教育委員会　佐賀市教育委員会　朝日新聞社　毎日新聞社　読売新聞西部本社
西日本新聞社　佐賀新聞社　ＮＨＫ佐賀放送局　ＳＴＳサガテレビ　エフエム佐賀
ＮＢＣラジオ佐賀　佐賀大学文化教育学部国際貢献委員会

一緒にあそぼう！

毎年恒例の「ユニセフのつどい」を開催しました。今年のテーマは「世界の子どもの日inSAGA」。外国のあそびや日本のあそびを会場のみなさんで楽しむ「一緒にあそぼう！」、ユニセフの支援物資などについて考えるワークショップ「これ、なぁに？」、そして最後には佐賀ユースオーケストラの演奏を楽しむ〝Let’s enjoy music〟・・・会場は終始笑い声や歓声に包まれていました。総勢約90名の参加があり、ご来場くださった皆様、ご協力くださったボランティアの皆様、共催／後援でお力を貸してくださった皆様に心より感謝申し上げます。

これ、なぁに？

Let’s enjoy music!

参加者の声

「一緒にあそぼう！」について

- ペルーの遊びが印象的でした。頭と体を同時に使うことで子どもも大人も楽しめると思いました。（女性）
- 最初の遊びに大人げなく熱中してしまった。（20代・女性）
- エジプトのことばなどのプレゼンがよかったです。（40代）

「これ、なぁに？」について

- 世界中では、ユニセフの支援を必要としている国が多くあること、また、ユニセフは様々な物資を支援していることを知りました。（女性）
- 栄養補助食品が奇跡の食べ物となっていることに驚きました。（20代・女性）
- 水がめがあんなに大きくて重いのにおどろきました。（10代・女性）
- 世界の貧しい国に目を向けさせる内容になっていたと思います。（40代）
- 蚊帳が今でも世界中で使われているのは、初めて知った。（10代・男性）

"Let's enjoy music!"について

- 小学生から、大人の人たちが入りまじって演奏していて、みていて楽しかったし、聴いていても楽しかったです。（10代）
- みんなが知っている曲で楽しめた。（10代・女性）
- 小さい子たちも頑張って演奏していてすごいと思いました。（10代・女性）
- 楽しそうに演奏をしていたので、こちらも楽しかった。（30代・男性）

全体的な感想

- いろいろな企画があり、飽きませんでした。（10代）
- 今後も積極的に参加したい。（60代以上・男性）
- 皆で楽しめて、世界のことが知れるのは良いな！と思った。（10代・女性）
- とても工夫がこらされていて、良い企画でした。（40代）
- 人といっぱいふれあうことができ、楽しくすごせた。（10代・男性）

ユニセフ写真展「ユニセフと日本の子どもたち」

10月3日（木）～10月9日（水）佐賀市立図書館２階ロビーギャラリーにて

後援：佐賀県　佐賀県教育委員会　佐賀市教育委員会　朝日新聞社　毎日新聞社　読売新聞西部本社
西日本新聞社　佐賀新聞社　ＮＨＫ佐賀放送局　ＳＴＳサガテレビ　エフエム佐賀
ＮＢＣラジオ佐賀　佐賀大学文化教育学部国際貢献委員会

今から60年以上も前の戦争が終わって間もないころ、日本の子どもたちは深刻な栄養不良で、衣料などの生活に必要なものも十分ではありませんでした。そこでユニセフは、第二次世界大戦後の1949年（昭和24年）から1964年（昭和39年）までの15年間にわたり、ミルクとして子どもたちの給食に出ていた粉ミルク（脱脂粉乳）のほかに、衣服をつくるための綿や医療品など、当時のお金で65億円もの援助を受けました。

2011年3月11日東日本大震災発生後、日本ユニセフ協会には、国内外から、被災した子どもたちのために温かい支援が寄せられました。ニューヨークのユニセフ本部もまた、日本ユニセフ協会を通じ、約半世紀ぶりとなる日本への支援を表明しました。今日も、その支援は継続しています。

上記を踏まえ今回は、「戦後ユニセフの日本支援」「EYE SEE TOHOKU～子どもたちの目が見る被災地の今と明日～」の２本立てで、ユニセフ写真展を開催し、多くのお客様にご覧いただける機会となりました。ご来場くださった皆様、誠にありがとうございました。

ユニセフってなあに？

子どもの権利条約

「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」って聞いたことがありますか？ 世界中のすべての子どもたちがもっている“権利”について定めた条約です。戦争に巻きこまれてしまったり、防げる病気で命をうしなってしまったり、つらい仕事で１日が終わってしまったり…世界には厳しいくらしをしている子どもたちがいます。「子どもの権利条約」は、そんな子どもたちをはじめ、世界中の子どもたちの強い味方です。ユニセフもこの条約に書かれた子どもたちの権利を守るために活動しています。

「子どもの権利条約」ができるまで

1989年「子どもの権利条約」は国連で採択され、1990年国際条約として発効しました。日本は1994年4月22日に批准し、1994年5月22日に発効。

1948年「世界人権宣言」 すべての人は平等であり、それぞれが同じ権利をもつとした宣言。

1959年「児童の権利宣言」 子どもは子どもとしての権利をそれぞれもつとした宣言。
このときから、宣言だけでなく実際に効力のあるものができないかと考えられはじめた。

1978年「子どもの権利条約」の草案（はじめの具体的な案）がポーランド政府から提出される。

1979年「国際児童年」
「児童の権利宣言」20周年。世界中の人が子どもの権利について考える機会になった。
国連人権委員会の中に「子どもの権利条約」の作業部会が設置された。

1989年「子どもの権利条約」国連で採択　　ユニセフや多くの国の10年にわたる努力がみのる。

1990年「子どもの権利条約」が国際条約として発効

2013年7月現在　193の国と地域がこの条約を締結

ユニセフと「子どもの権利条約」

ユニセフは、国連人権委員会で「子どもの権利条約」の草案作りに参加。国連総会での採択ならびに各国政府による批准を促すため、全世界で広報・アドボカシー活動を行いました（日本ユニセフ協会も、日本政府による批准を求めるキャンペーンを実施しました）。

ユニセフは、「子どもの権利条約」が、条約の内容の実施に関する助言や検討などの専門的な役割を与えている国際機関です（第45条）。条約発効後、ユニセフは、本条約の執行状況を確認し参加国に助言を与える「子どもの権利委員会」に参加するとともに、世界150以上の国と地域で実施する支援活動、ならびに日本を含む先進各国でのアドボカシー活動などを通し、条約にうたわれている権利の実現を目指しています。

「子どもの権利条約」−4つの柱−

※「子どもの権利条約」の条文/資料等についてのお問合わせは佐賀県ユニセフ協会まで。

生きる権利 ○防げる病気などで命をうばわれないこと。 ○ 病気やけがをしたら治療を受けられることなど。	**育つ権利** ○教育を受け、休んだり遊んだりできること。 ○考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができることなど。
守られる権利 ○あらゆる種類の虐待や搾取などから守られること。 ○障がいのある子どもや少数民族の子どもなどはとくに守られることなど。	**参加する権利** ○自由に意見をあらわしたり、集まってグループをつくったり、自由な活動をおこなったりできることなど。 そのときには、家族や地域社会の一員としてルールを守って行動する義務がある。

【資料提供】日本ユニセフ協会

ご支援ありがとうございます

母子草様　トヨタ紡織九州株式会社レッドトルネード様　コープさが生活協同組合様
佐賀リハビリテーション病院様

すぎの子文庫様　副島病院様　九州電力株式会社佐賀支社様
久留米市立荒木中学校様　佐賀銀行本店様　神埼市立千代田中部小学校様
唐津市民病院きたはた様　佐賀市立図書館様　ヘルスランチあららぎ様
佐賀ギター音楽院様　広瀬小児科様　大塚製薬㈱佐賀工場様　佐賀新聞社総務局様
佐賀県医師会成人病予防センター様　大川市立道海島小学校様　佐賀市立城北中学校様
（2013年9月11日～2013年11月16日）

☆　いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
　　個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
　　この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。

これからの予定（11月20日現在）

☆2013年12月1日（土）　日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場にて　（佐賀県総合体育館）
　　トヨタ紡織九州レッドトルネード募金活動＆ユニセフ・カードとギフト頒布
☆2013年12月8日（日）15日（日）
　　第35回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン
　　※詳細は同封のチラシをご覧ください。

☆2014年3月6日（木）～3月12日（水）
　　ユニセフ写真展「ハッピーバースデイ３．１１」
　　（佐賀市立図書館２階ロビーギャラリー）
☆2014年3月9日（日）　ユニセフ講演会「東日本大震災から３年―被災地は今―」（仮）

賛助会員募集中！　日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください

☆公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にしていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員　1口 5,000円…個人の方が対象
2. 学生賛助会員　1口 2,000円…学生の方が対象
3. 団体賛助会員　1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象　期間は、1年ごとの更新。

✿ご協力いただける方は、佐賀県ユニセフ協会までご連絡ください。

unicef の 仲間たち!

～洋画家・バイオリニスト　森和幸さん～

10月6日に佐賀市立図書館２階多目的ホールで行われた「ユニセフのつどい2013 ～世界の子どもの日 in SAGA ～」に佐賀ユースオーケストラとして参加させていただきました。今年で設立25周年を迎える佐賀ユースオーケストラは、小学校１年生から80才代まで25人ほどの幅広いメンバーで構成されている楽団です。今回のつどいでは”Let’s enjoy music！”がテーマでしたので、みなさんに楽しんでもらえるよう、子どもたちに馴染みの「大きな古時計」や「見上げてごらん、夜の星を」、パッヘルベルのカノンや佐賀のわらべ歌など全７曲を披露しました。会場に用意していた椅子が満席になり、来場者からは「小さな子どもまで演奏を頑張っていて感動した」「音楽に元気をもらいました」などの声をいただき、本当に充実した時間を過ごしました。

思い返せば、ユニセフとの出逢いは現在の佐賀県ユニセフ協会の最初の種である1993年の「佐賀友の会準備会」発足のときになります。こうした活動への支援というのは、活動の継続のためにも寄付金や途上国など現地に足を運ぶことなども、もちろん大切なのですが、私は洋画家・バイオリニストとしての“自分のできる手伝い”を模索しながらユニセフとかかわってきました。

未来を担う子どもたち。彼らには、たくましい体と心を養ってほしいと願っています。そして、一人で生きていけるようになった時、今度は誰かに手を差し伸べてほしい。その為には、私たち大人も生き生きと働いている姿や一生懸命になる姿を彼らにみせていかねばいけないと思っています。

私は音楽や絵画をはじめ、芸術家として技術を伝承し、未来に残していく事も重要だと感じています。そんな自分が必要とされたときにこうして応えていくことこそ、自分の使命ではないだろうかと考えているのです。自分を含む、世界中の芸術家が輝くことで、世界の子どもたちの幸せにつながっていけばと、私は感じています。

（取材・高原陽子）

★カードとギフトのご紹介★

クリスマスカードや年賀状、カレンダーもたくさんご用意しています。
お問い合わせは、佐賀県ユニセフ協会まで。